

あかちゃん研究室

総合研究1号館のとある扉には「あかちゃん研究室」と書かれたプレートが掛かっている。部屋の中は研究室の無機質なイメージとはまったく違い、さまざまなおもちゃやパステル調の家具であふれ



ている。ここは教育学研究科の明和政子准教授の研究室であり、あかちゃんに関する実験が行われている。部屋には安全性を考慮して丸みを帯びた家具が多く、またあかちゃんの気が散らないようになるべくシンプルにしてあるという。

実験の内容はあかちゃんの泣き声や視線の動きの測定など多岐に渡っており、左写真は画面上を動くボールと音に対するあかちゃんの反応を調査している様子だ。どの実験も親子への配慮がされていて、リラックスできる環境が整えられている。実験の合間には右写真のようにあかちゃんと遊ぶ研究生の姿が見られた。

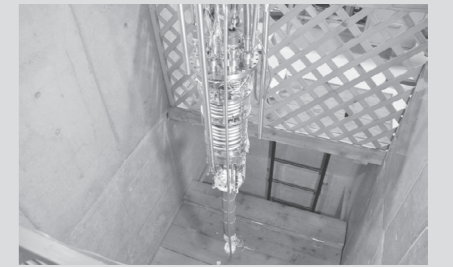


低温物質科学研究センター



中央キャンパスの北東に位置する低温物質科学研究センターは10年前に発足した比較的新しい施設である。低温に関する研究だけでなく、吉田キャンパス内各施設への液体ヘリウム・液体窒素の供給も行っている。また、使用されて気体になったヘリウムは地下に敷設されているパイプを通り、北部構内にある冷却装置で再び液化されるという。

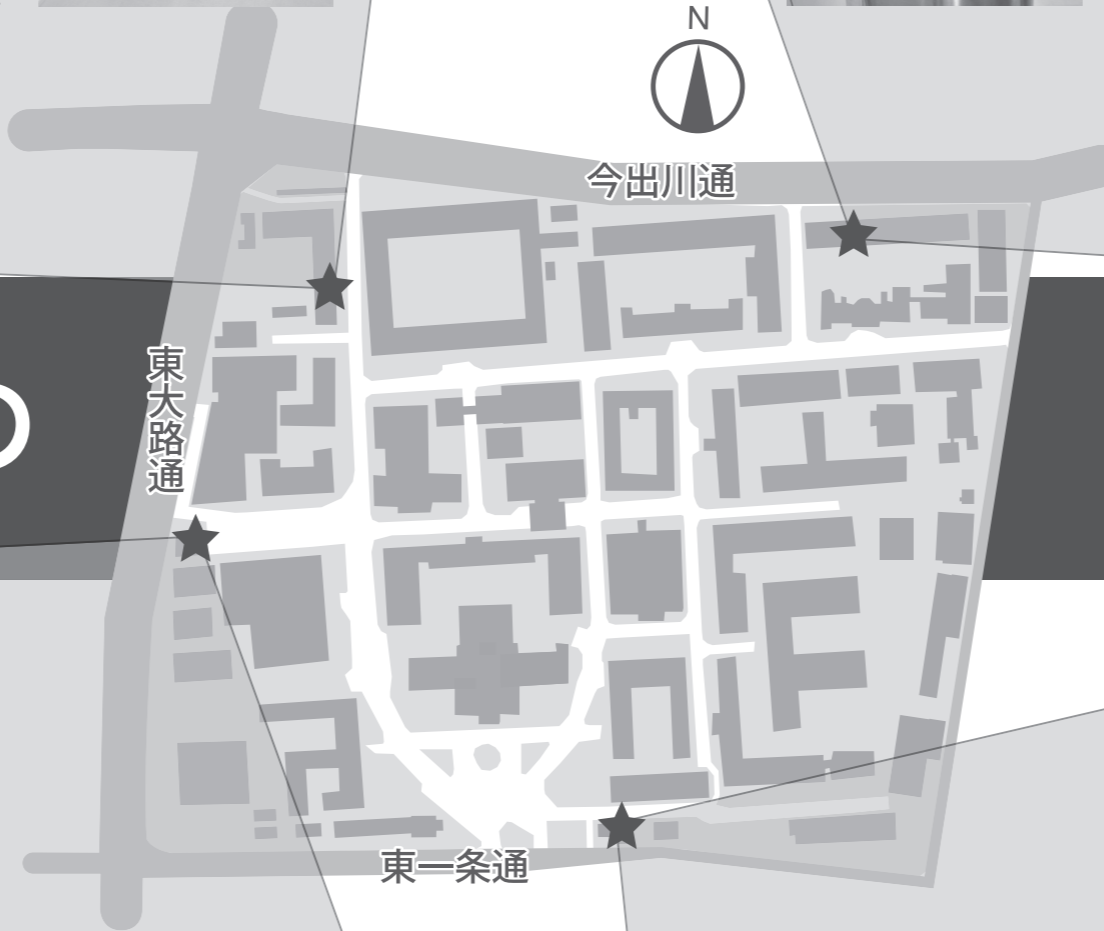
センター地下1Fの地下MRI実験室には右写真のような冷却装置がある。一部は市販の装置だが、より専門的な研究を行うために大学で製作したという先端にある銅の冷却部位は1/10000 Kに下る。



1/10000 Kの世界では電波やわずかな振動も温度を上げてしまうため、地下に金属壁の研究室を作るのが最も適しているという。センターには他に極低温電顕室などの研究施設が多く存在している。



中央キャンパスの



知られざる施設

「あの建物なんだろう?」「あの部屋、気になる……」
そんな疑問を解決します!

そんじょうどう 尊攘堂

尊攘堂は子爵の品川弥二郎の死後、弥二郎の師匠であった吉田松陰の遺墨類を収めるために1903年に建てられた。当時の流行であった破風付きの窓、切妻のポーチなどの和洋折衷建築が改修される



ことなくそのまま残っている。

当時取められていた資料は現在は附属図書館に移され、維新特別資料として収蔵・保管されている。そのため、現在の尊攘堂では京都大学構内で発掘された埋蔵文化財の保存・展示を行っており、多数の甕や香炉、焼き物などが置かれている。そのため歴史学習の一環として社会見学や修学旅行で訪れる中・高校生も多いとか。

尊攘堂は通常非公開だが、見学希望者は事前に文化財総合研究センター事務室に問い合わせ、職員の都合がつけば内部に入ることができる。



(人環・院 ふみふみ)
(わんわん! ; 編)

はなたに 花谷会館

中央キャンパス正門を入ってすぐ右に見える木造2階建て建築物、それが花谷会館である。花谷会館は1945年、広島で原爆被害の調査中に枕崎台風に襲われ亡くなった、当時理学部大学院生だった花谷暉一氏の遺族によって大学に寄贈されたものである。花谷会館は喫茶店として利用された後、現在は京大生協の本部となっている。

1Fは組合員センターであり、共済の加入手続きや給付申請、出資金の返還などを行うことができる。住所や電話番号



が変わった際にはこの組合員センターで手続きをとらなくてはならないため、行くのを忘れずに。



はみだし すてーじ

「塵」「焔」「焔」「焔」「焔」「焔」「焔」←全部活字で出力できたらオレ、あのコと結婚するんだ……。
⇒おめでとうございます。

(工・2 マクロファージ)
(編集部一同で探しました; 編)

はみだし すてーじ

編集部員に絶対猫好きがいるだろう。
⇒最近猫派の台頭が激しくて犬派の私は肩身が狭いです。